

2005年度卒業／2006年度入学記念

どこでもドアのかぎ10



どこでもドアのかぎ 10

目次

板垣俊一	(国際教養学科)	2
戸潤幸夫	(幼児教育学科)	3
宮西邦夫	(食物栄養専攻)	4
岸井勇雄	(学長)	5
小谷一明	(英文学科)	6
小澤薫	(生活福祉専攻)	8
黒田俊郎	(国際教養学科)	9
石川伊織	(国際教養学科)	11
渋谷崇行	(幼児教育学科)	14
福本圭介	(英文学科)	15
石井玲子	(幼児教育学科)	18
権寧俊	(国際教養学科)	19
柳町裕子	(国際教養学科)	20
小池由佳	(生活福祉専攻)	21
福嶋秩子	(英文学科)	22
水上則子	(国際教養学科)	23
特集 雪がとけたら読む本		24
どこでもドアのかぎ 第1号～第10号推薦書一覧		29
第10号アンケートのお願い		51

1492年のマリア

西垣 通
講談社

思考するコンピュータという考えの源流とも言われた、十三世紀スペイン、カタルーニャのルルスが考案したという万物の基本概念を組み合わせて容易に真理に至りうる「円盤機械」を使った「大いなる普遍の術」をテーマにした歴史・思想小説である。舞台は、コロンブスが西廻り航路を開き、続いて新大陸の発見がなされたころのスペイン。中心人物はルルスの術にかぶれたユダヤ系キリスト教改宗者の青年。作者は情報文化学者として知られている西垣氏。私は、現代小説はほとんど読まないのだが、コンピュータ学者がいったいどんな小説を書くのだろうかという野次馬根性からあえて読んでみた。やはりどうも全体的に知性が勝った小説である。つまり学者の書いた小説だという印象が強く、いわば「心余って言葉足りず」の感がある。

15世紀末のスペインが舞台ならば、読者はすぐ西洋における小説の起源とみなされているセルバンテスの『ドン・キホーテ』を思い浮かべるだろう。中世の騎士物語を読み過ぎて、みずから騎士道そのものを実践する旅に出る時代錯誤の男の物語で、それ以前の騎士物語のパロディとして成立している小説である。西垣氏の『1492年のマリア』はどうか。この物語の中心人物であるアロンソという青年の行動は、コロンブスから譲られた一冊の書物をよりどころにしている。その書物とはルルスの弟子が書いた日誌であり、小説中にもその物語的な内容が引用されている。つまりこの小説は、小説中の人物が手にした書物の内容を時代と背景を違えてもう一度繰り返すという、入れ子型の物語になっている点で、『ドン・キホーテ』と原理的に同じ構成をとっている。さらに騎士物語そのもののパロディ的な部分もある。中心人物である青年の窮地を、煙突と馬に乗って救い導く男勝りのマリアという女性が登場する部分であるが、しかしその娘はユダヤ人富豪のお嬢さんであって、その豹変に読者はいささか唐突な印象を受ける。ちょっと前の用語をつかえば人物の形象化が今ひとつである。

このような不満を述べつつもなぜ推薦するかといえば、この小説には〈アメリカ〉〈IT〉〈宗教対立〉といったきわめて現代的な課題が盛り込まれていて、それを小説という形で文学的に表現しようとした試みに意義を認めるからである。本書をきっかけに、良きにつけ悪きにつけ現代の国際社会に君臨するアメリカの歴史の本質をヨーロッパにおけるアメリカ大陸発見以前のヨーロッパ社会に想像してみるのも意味のあることだと思う。

なお、同氏はさらに二年後『アメリカの階梯』(2004.)という小説を書いている。中心人物が日本人である点もあるが、こちらの方が少しこなれて読みやすくなっている。ただしこれも知識人の小説であり、「歴史思想小説」と銘打ってあるが、いわば「歴史・思想」と「小説」的表現との間にまだ隙間が感じられる。内容は、混血児の青年が自分の出生を知ろうとアメリカに居る実父の元に旅立ち、そこで自己の存在の危うさを味わうというもので、テーマとしては魅力がある。

BOOKS

幼児教育 戸潤 幸夫

BOOKS

幼児の造形 ワークショップ 3 基本と展開

東山明
明治図書

このシリーズは、1. 平面造形編、2. 立体造形、造形あそび編、3. 基本と展開の3冊があります。子ども達の造形表現を分かりやすく、現場に役立つ内容となっています。

世界芸術家辞典

世界芸術家辞典事業部
順天出版株式会社

過去から現在、日本を含めて世界の美術家2万人の作品と作風、経歴が掲載された書物です。

美術に興味がある人には楽しい1冊です。2006年4月発行となります。

BOOKS OF THE MONTH

食物栄養 宮西 邦夫

BOOKS OF THE MONTH

病気にならない生き方 ミラクルエンザイムが寿命を決める

新谷弘美

サンマーク出版

医学が進歩しているのに、病人が増えるのはなぜだろう？に適確に解り易く平易に、全米ナンバーワンの胃腸内視鏡外科医が答えています。是非、一読を勧めます！時を忘れて読みました。

なぜ「粗食」が体にいいのか

帯津良一、幕内秀夫

三笠書房

「世の中の常識」と「豊かな食生活」、「粗食のすすめ：あなたを確実に健康にする10の習慣」、この食べ方が「あなたの自然治癒力」を高めるなど、自分自分のLifestyleの点検をしてみませんか？私は多めに反省させられました。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

学長 岸井 勇雄

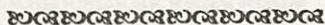
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

子育て小事典 - 幼児教育・保育のキーワード -

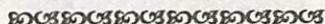
岸井勇雄

エイデル研究所

本学創立期以来、幼児教育科や付属幼稚園の創設にかかわり、文部省に招かれて教育要領の改訂に参画するなど、人間形成の理論と実践の研究に終始した筆者の集大成。幼教・福祉はもとより、将来人の子の親となる男女学生諸君にぜひ読んでもらいたい本です。



英文 小谷 一明



枯木灘

中上健次

河出文庫

昨年秋、初めて紀州和歌山を訪れた。新潟を出てから7、8時間程で熊野への入り口、田辺市にたどりついた。そこで自転車をレンタルし、南紀白浜を背に海岸沿いを汗ばみながら西進した。そして干潮の夕まぐれに、子供が浜遊びをし大人が釣りをする渚で自転車をおりた。初めて見る紀州と四国の間にある枯木灘。残照に輝く豊かな海であった（鰯がうまかった）。中上健次の『枯木灘』にも、田辺の浜は家族が出かける場所として登場する。家族、血縁関係といった人間の描き方だけでなく、風景描写も記憶に残る作品だ。

エプロンのうた

香山末子

皓星社

昨年秋、初めて三重県を訪れた。大阪から2時間、伊賀上野で歌人李正子さんに会いに行った。それがきっかけで短歌を習い始めることになったが、李先生の新作に草津の詩人香山末子さんが登場する。香山さんはハンセン病を患い、群馬県の栗生楽生園で半世紀を過ごした。詩人村松武司の指導もあり、60歳を超えてから詩作を始めた。彼女の詩集は現在、娘の初子さんが編集した『エプロンのうた』しか入手できない。彼女の詩は朴訥で無骨、そしてユーモアに充ちている。どこかなつかしい労務者言葉のぶっさらぼうさだ。

蟹工船・一九二八・三・一五

小林多喜二
岩波文庫

昨年秋、実質的には初めて北海道を訪れた。空港から札幌までを寝てすごそうと心に決め、体内時計の正確さで到着直前に目が覚めた。しかし体は動きたくないと言っており、そのまま放置し最終駅の小樽へ向かった。小樽文学館に立ち寄った後、タクシーの運転手に多喜二ゆかりの場所へ案内してもらった。なかでも見晴らしの良い丘に佇つ小林家の墓には心打たれた。蟹やニシンがたくさん水揚げされた80年前の小樽。『蟹工船』は北の海を力強く描き出し、フィクションの持つ寓意的な表現力で使い捨てる船乗り達を描く。

BOOKS OF THE MONTH

生活福祉 小澤 薫

BOOKS OF THE MONTH

虚構の楽園

ズオン・トゥー・フォン

段々社

物語の終盤に、主人公が旧ソ連の町の土産物屋近くで日本人観光客をみかけます。その日本人をみる主人公の目に、日本人としての自分を、アジアの中での日本を大きく意識させられました。本書は、アメリカ、フランス、ドイツなど多くの国で翻訳されていますが、本国ベトナムでは発刊禁止となっています。一面的な理解を超えたベトナムという国を、その歴史を、その政治体制を、そして日々の生活を、鮮明に感じることができると思います。

現状報告 路上に生きる命の群—ホームレス問題の対策と提案—

宮下忠子編

随想舎

「誰だって好きでホームレスをやっているのではない。野良犬生活でも生きていることは事実である。野良犬と言われようと、乞食と言われようと私は人間なのだ」と、野宿生活者の手記によって始まります。生と死の狭間で生きている野宿生活者の苦悶の声、彼らと直接的に関わっているボランティアの人々のやるせない思いが綴られています。野宿生活者1人ひとりの抱える真実を、本当のことを訴えかけているので、それを受け止め、今なすべきことは、なし得ることは何かを考えながら、「命」の重さを、「人間とは何か」ということを改めて考えてみませんか。

国際教養 黒田 俊郎

国際教養 黒田 俊郎

国際教養 黒田 俊郎

子どもたちのアフリカ

石弘之
岩波書店

今回は、フランスにちなんだ本を三冊紹介します。まず最初はアフリカの本。フランスに滞在すると、アフリカがとても身近に感じられます。石さんの本は、そのアフリカの現状を子どもたちの視点からルポルタージュしたものです。エイズ孤児、性的虐待、女性性器切除、子ども労働と子ども奴隷、そして少年兵と暗い話題ばかりですが、まずアフリカのこの現実を直視し、そこから出発するしかありません。

移民と現代フランス

ミュリエル・ジョリヴェ
集英社新書

二冊目は、昨秋勃発し、日本でも話題になったフランス大都市近郊の若者暴動に関する本です。実は私はこれを「暴動」だとは思っていません。社会的排除に対する若者の反抗だと考えています。ジョリヴェさんの本は、事件の背景にあるフランスの若者たち、とりわけ移民の若者たちの生活を具体的かつ平易に解き明かしてくれます。この本のなかで紹介されているフランス映画『憎しみ』は、政治学の授業で毎年取り上げているので、授業をとった人は覚えているかもしれませんね。ちなみに監督のマチュー・カソヴィッツは、ジャンニピエール・ジュネの『アメリカ』やスビルバーグの最新作『ミュンヘン』で役者としても活躍しています。

日本の詩歌

大岡信
岩波現代文庫

最後の一冊『日本の詩歌』は、詩人の大岡信さんがフランスのコレージュ・ド・フランス（フランスでもっとも権威のある高等教育機関で、その講義はすべて無料で市民に公開されています）において行った日本の古典詩歌論の講義録です。菅原道真の漢詩に始まり中世歌謡（『梁塵秘抄』『閑吟集』）で終わるその内容は、平易でありながらも深い味わいがあり、読むことの喜びにあふれています。論じられている素晴らしい詩歌のなかから一首だけ最後に引用しておきましょう。

見しことも見ぬ行末も仮初の枕に浮ぶまぼろしの内（式子内親王）

グロテスクな教養

高田理恵子
ちくま新書539

最近の学生は教養がない……と言われてずいぶん経ちます。皆さんも言われたことはありますか？ さっとあるはずです。そもそも、私が授業で言ってますから。でも、高田さんによると、教養がはやったのは日本では戦中のファシズム期だし、教養の主要な課題は「男の子、いかに生きるべきか？」だったのだといいます。この裏返しは、「女には教養なんかいらない」です。でも、今では人文学部や教養学部は女子学生の方が大勢です。なんか、グロテスクではない？！ こういうグロテスクさを見て、マッチョで無教養なおじさんたちは、「雑多な教養科目のつまみ食いばかりして！」とか、「もっとお金もうけに役立つ学問を！」とか言います。でも、私たちに本当に必要な知識というのはどんなものなのでしょうか？ 本当の意味で教養が必要になるのは社会に出てからです。

<いい子>じゃなきやいけないの？

香山リカ
ちくまプリマー新書020

無理して<いい子>を演じている人はいませんか？ ネコかぶる必要がある時だったまにはあるけど、いつもいつも、それも何枚も何枚もネコをかぶっていると、それはもう疲れます（ネコは「一枚・二枚」って数えるのだと思ってたら、マンガ家の川原泉大先生は「一匹・二匹」と数えてました。川原先生の描くネコかぶりのお嬢様の肩には、見えないネコが何匹も載っていて、その重さで肩がこるんだって）。<いい子>なんてやめちゃおう！ 子ども向けに書かれた本だけど、まだ<いい子>に呪縛されている人たちが多そうだから、お薦めします。同じシリーズの『勉強ができなくても恥ずかしくない』（ちくまプリマー新書006～008 橋本治著）もおすすめ。

パズルランドのアリス I・II

レイモンド・M・スマリヤン

ハヤカワ文庫

ルイス・キャロルの『アリス』に出てくるキャラクターが繰り広げるパズルのお話。簡単に読めそうなんだけど、パズルはかなり高級です。頭の体操、はたまた論理学の勉強にどうぞ。就職対策になるかも……まさかねえ。

貧困の克服——アジア発展の鍵は何か

アマルティア・セン

集英社新書0127A

経済学者のセン教授の講演をまとめた本。市場経済がまともに機能するのは、市場が提供するチャンスをすべての人々が合理的に分ち合う条件が整備されている場合だけだ、と教授は言います。日本の経済発展の鍵は、戦後の高度経済成長のはるか以前に、教育によって驚異的な識字率を達成していたことだそうです。「教育は警沢だ」、「まず経済発展、それから教育」と、多くの人は考えますが、これは完全に逆で、教育を受けた良質な労働力が大量に供給されたから戦後の高度経済成長があった、というのです。同じことが、韓国でも中国でもシンガポールでも起こった……「金がないから教育より経済」ではなくて、「金がないからまず教育」なんじゃないかしら。だって、貧乏人が手に入れられる成功のための唯一の手段は知識なんだから。

のだめカンタービレ 既刊1-14巻

二ノ宮知子

講談社

変人ばかり出てくるみたいに見えるでしょうけど、「のだめ」ワールドの登場人物は、実はみなとんでもない天才ばかりなんです。のだめ本人だってそうです。聴いただけの曲をすぐピアノで弾き始めて、それも曲はどんどん変奏されて、とんでもなく発展して、でも最後にはもとの曲に戻ってくる……なんて普通できませんよ。これからもっと面白くなりそうです。6月発売予定の15巻にはマンガースのぬいぐるみ付き特別バージョンがありますが、もう予約はまにあわないかな？

大奥 第一巻

よしながふみ

白泉社

昨年のマンガ界の最大の収穫(?)。奇病の蔓延で男の子がどんどん減って行って、女ばかりになってしまった架空の江戸時代。將軍も女で、それでも將軍家を絶やすわけにはいかないので、もともと数の少ない男性を日本中から集めた「大奥」があって……という設定。男女を逆転させると、現代社会の倒錯がとてもよく見えてきます。ボーイズ・ラブ系のかなりきわどい作品ばかり描いてきたよしながふみが、とんでもなくストイックに放つ大傑作。

言いたいことがきちんと伝わる50のレッスン

平木典子
大和出版

学生時代にいろいろな仲間と接してきました。私はひとつの言動に対して、あとになってから細々考えるタイプだったので、「なんであの人こんなこと言ったんだろう?」とか「あのときこう言っていればよかったのに...」とかよく思ったものです。言うべき事を伝えられずに不快な思いや迷惑をかけたことも多くありました。初対面の人など居心地の悪い場面で表面的な会話を行うことや、遠慮しすぎて何もいえないこともありました。そのような経験、皆さんにはありますか?言いたいことを伝えるというのは、結構難しいことだと思うのです。でも、それをうまくやれている人があるのだからなにか“コツ”のようなものでもあるのかなあ。この本は人間関係で困ったときに役立つヒントが書かれています。著者はアサーション(心地よい自己表現)トレーニングの第一人者。

塩狩峠

三浦綾子
新潮社

学生時代は小説を結構読んだ方だと思うのですが、誰でも最初の本はあるというわけで、それまで読書と全く縁のなかった私に本を読ませることになった一冊がこの「塩狩峠」でした。小説のテーマは、愛と犠牲。「他人の犠牲になんてなりたくない、誰だってそうさ—そうだろうか、本当に?」愛する人のために何かを犠牲にすることはできますが、そうでない人の場合はどうでしょう?利益を求めず、人のために何かをする。小説は、ボランティア精神とは次元の違うところで人間愛を描いています。私は個人的に主人公と同じような生き方は到底できるようなには思えないのですが、できる場所で人間らしく生きられればいいなあと思います。この本を読むことで、人間の生きる意味について考えることができるでしょう。

英文 福本 圭介

怒りの方法

辛淑玉
岩波新書

雪どけまでは待てない、という人向けに、氷を溶かすようなホットな本を紹介したいと思います。『怒りの方法』は、怒りの表現とその可能性についてじっくり考えさせてくれるとても素敵な本です。喜怒哀楽は、誰もが経験するごく普通の感情ですが、「怒」だけがとび抜けて表現が難しい。で、我慢する人も多い。しかし、溜め込みすぎると、自分のためにも、人のためにも絶対よくない。憎しみに変わったり、自分を否定したり、弱いものに向かったり。どうする？ 著者は、「怒る」は、新しい人間関係を築き、つなぐためにするものと定義しています。では、この高度に社会的でデリケートな行為をどんなふうイメージすればよいのか。「平和」(peace)を求めている人、ぜひ読んでみてください。ピース！

暴力の哲学

酒井隆史
河出書房新社

ホットな行動を支えるクールな思考を求めるあなたのために、もう一冊。この本には、公民権運動のヒーローであるキング牧師やブラック・ナショナリズムのカリスマであるマルコムXが登場するのですが、著者は、暴力の根っこにある(自己)憎悪を解体する力について考えています。ここでもキーワードは「怒り」。著者は言います。「マルコムは、おしろ黒人たちの自己や他者におかう憎しみを怒りに変えたというべきです」。そこで黒人たちにいったいどんな変化がおこったのでしょうか？ 押しつぶされてはならない、ぼくたちは、変わってゆける。そんなふうにあくまで熱くさせた本でした。

死にいたる病

セーレン・キルケゴール
ちくま学芸文庫

うわっ、なに、この恐ろしいタイトル！しかし、この哲学書は、すごいですよ。読むべきときに読むと、圧倒的なインパクトがあります。まだ東京に住んでいるころ喫茶店でこの本を読んでいたのですが、そのときの衝撃は今でも覚えています。静かにガツンとやられました。「私はずっと絶望していたのだ」。あせって喫茶店を飛び出したのを覚えています。真冬の並木道、「はあ、はあ」。読む前の自分と、読んだ後の自分が違う。素敵。

無産大衆神髓

矢部史郎、山の手緑
河出書房新社

最近、社会不安をダシにした、それ自体「下流」の本が驚くほど売れたり、新聞でも大きく広告されたりしています。こんなものでは本当に社会が「下の下」になる、辛抱たまらん。そんなふうにした人は、この本を読んでみてはどうでしょうか。漫才のような左翼エンタテインメント。ぼくは今よりずっとお金がなかった時代にこの本を読みました。ユーモアとは諦めではなくて反抗である。フロイトがどこかでそんなことを言っていました。真剣な顔で真面目なことばかり語っている人が誠実だとはかぎらないのです。

坂口安吾全集 (14) (15)

坂口安吾
ちくま文庫

「空にある星を一つ欲しいと思いませんか？思わない？そんなら、君と話をしない」（「ピエロ伝道者」）。ぼくは学生のころ、坂口安吾の大ファンで、日本海を見に一人で新潟まで遊びに来たこともあります。安吾の小説は実はあまり読んでないのですが、彼のエッセイは繰り返し読みました。カッコいい。安吾は、矛盾や混沌のなかで生きることを、あかくこと、落ちることを肯定する。まるごと。（Mr. Childrenが好きの人、きっと安吾も好きですよ。）安吾の言葉は、誰のものでもないがゆえに誰のものでもある、そんな、蛙飛び込め水の音一。

ボクの音楽武者修行

小沢征爾
新潮文庫

「外国の音楽をやるためには、その音楽の生まれた土地、そこに住んでいる人間をじかに知りたい」という著者が24歳の時、スクーターに乗って貨物船でヨーロッパへと旅立った、、、。世界的指揮者の小沢征爾がヨーロッパに渡ってゼロからスタートし、ブザンソン国際指揮者コンクール入賞や、カラヤン、バーンスタインに認められてニューヨーク・フィル副指揮者に就任するまでのことを語った自伝的エッセイ。自分の力で自分の道を切り開いていく姿は力強く、そして美しく、私たちに勇気を与えてくれます。「世界のオザワ」の音楽に対する真摯な気持ちや情熱から、皆さんも是非、何かに挑戦する勇気ももらってください。

恋

小池真理子
新潮文庫

舞台は1970年代初頭、主人公の女子大生とある夫婦の奇妙な三角関係を耽美的に描いた直木賞受賞作品。浅間山山荘事件と同じ頃、同じ軽井沢で、一人の女子大生が殺人事件を起こすのですが、彼女が殺した人間は意外な人物でした。皆さんと同じぐらいの年齢の普通の女子大生がいかにして殺人者になったのか、彼女を取り巻く環境の変化と心の変化を見事に描写しています。人間の醜く汚い部分も含めた様々な感情の面を表現しつつ、作品全体には美しさが残っている、そのような著者独特の世界に引き込まれて一気に読んでしまう本です。

国際教養 権 寧俊

国際教養 権 寧俊

ワイルド・スワン (上・下)

ユン・チアン (張戎)

講談社

本書は、著者であるユン・チアン (張戎) の祖母、母、そして本人の3代にわたる中国女性たちの記録です。祖母は纏足を強いられた最後の世代であり、母は日本が支配した瀋陽で教育を受けた世代です。また、彼女自身は14才のときに文化大革命を経験し、その後、四川大学英文科を卒業してイギリスに留学し、言語学の博士号を取得することになりました。この3世代の記録は、同じ世紀に行きながら全く異なる体験をする中国女性たちの歴史でもあります。本書は1991年にイギリスで出版され、NCRの文学賞やイギリス作家協会のノンフィクション部門の最優秀賞を受賞した本であり、世界各国で翻訳されてベストセラーとなった本です。しかし、中国では中国共産党や毛沢東に対する批判がかなり叙述されていたために、出版が禁止された本でもあります。

本書は、ただ単に中国の歴史を知るためではなく、皆さんがこれから自分の人生を設計するのに大いに役立つ本であると思います (本書は講談社文庫として上、中、下の3巻でも出版されている)。

XX

国際教養 柳町 裕子

XX

ブエノス・ディアス、ニッポン～外国人が 生きる「もうひとつのニッポン」

ななころびやおき
ラティーナ

著者は、日本に暮らす外国人の事件やトラブルを専門に扱う「町の弁護士さん」。彼が実際に扱った事件や出会った外国籍の人たちのエピソード集です。というより、奮闘記でしょうか。マスコミ報道だけではわからない在日外国人の状況や、日本の法律のからくりを垣間見ることができます。

XX

生活福祉 小池 由佳

XX

口からうんちが出るように手術してください

小島直子

commons

…こんなショッキングな題をつけた本が出版されていていいのか。本屋で見かけたときの第一印象はこれ。でも読んでみたら、この題の気持ちが痛いほど伝わってきた。誰だって女の子は大好きな彼の前では、デートの時にはかわいい女の子でいたい。そのために何日も前からドキドキしながら一番かわいい自分を見せるために用意する。そんな当たり前のことが”しょうがい”があるから予想外のことが起こってしまうという現実。でも直子はそこで止まらない。あるがままの姿で女性として生きていくことを、泣いたり笑ったりしながら自分なりに作り上げていく。そんな直子のことが、あとがきではこう書かれている。「だって直子は宇宙人」。

ぶどうの木 - 10人の”わが子”とすごした、 里親18年の記録

坂本洋子

幻冬舎

親がいても一緒に暮らせない子どもたち…。そんな子どもたちを育てることを決めた坂本夫婦の18年の記録である。血の繋がらない子どもと一緒に暮らすことは、並大抵のことではない。でもその大変さに拍車をかけるのは、里親・里子という親子・家族に対する私たちの無理解と心ない言葉なのかもしれません。離れていても「ぶどうの木」のように、つながり続けている親子の絆。血のつながりを超えて、親子とは何かを考えさせられる作品です。

英文 福嶋 秩子

続弾！ 問題な日本語

北原保雄編著
大修館書店

出版業界の日本語ブームがTVへと移った感のある昨今だが、TVでもお見かけするようになった北原先生たちのベストセラー本「問題な日本語」の続刊である。

先日、学生が「～について答えてもらっていいですか」と質問するのを聞き、気になっていたが、この本でもとりあげられている。この表現がおかしいと感じられるのは、許可を求める表現を依頼の表現として使っているからで、さらに、諾否について選択の余地がないようなケースで選択を求めているので押し付けがましく感じられる、とある。使用者への処方箋としては、「～してもらう」という恩恵を被ることを表す表現を使うことで丁寧さを示したいのだろうが、逆効果なので、最初から依頼表現で「～してください」「お願いします」と言ったほうがよいとしている。1冊目に自分の気になる表現が入っていなかったと思う人は、ぜひ「続弾」も手にとってみてほしい。

わかったつもり 読解力がつかない本当の原因

西林克彦
光文社新著

本を読むことを仕事にしている私のような人間にとって、この本はこわい本である。「わかったつもり」の状態がいかに危ういか、具体的な読みの作業を通じて明らかにしてくれる。細部を読まない浅い読み、文脈の働き、全体の雰囲気を書いていないことまで読みこんでしまうことなど、日頃行っている読みを内省すると納得させられる。

国際教養 水上 則子

博士の愛した数式

小川洋子
新潮文庫

私は数式を「愛する」人間ではないので、数学をめぐる問答が大半を占めている小説だと知っていたら、手に取らなかったかも知れません。しかし、読みすすめるうちに、3人の登場人物と一緒に数学に熱中している気分になりました。数学が3人の間に織り上げる不思議な絆が、しずかな感動を味わわせてくれます。

祖国とは国語

藤原正彦
新潮文庫

「博士の愛した数式」の文庫解説によれば、小川洋子さんは、藤原正彦さんからインスピレーションを得て小説を書いたとのこと。藤原さんといえば、新田次郎・藤原ていを両親にもち、数学者であると同時に、箇切れのよいエッセイを多く書いている方です。「小学校における教科間の重要度は、一に国語、二に国語、三、四がなくて五に算数、あとは十以下なのである」といった発言は、過激に聞こえるかも知れませんが、この本を読めばなるほど納得するでしょう。このほか、小川洋子さんと藤原さんの対談「世にも美しい数学入門」（ちくまプリマー新書）や、数学者としての自分を語ったエッセイ「若き数学者のアメリカ」（新潮文庫）などもおすすめです。

特集

雪がとけたら読む本

雪の多い、厳しかった冬も、
ようやく終わろうとしています。
春の喜びを味わいながら
こんな本を読みませんか

国際教養 石川 伊織

ハイネ詩集

ハインリッヒ・ハイネ
新潮文庫

ハイネの「おお、麗しき五月」は知っているかな？ ヨーロッパの五月は、雪が融けて一挙に花という花が咲き乱れる、一年で一番美しい季節です。暗い雪空がいつべんに明るい陽光につつまれます。新潟の五月もこれに近いのではないのでしょうか。この詩で始まるハイネの『歌の本』の一連の詩にシューマンが作曲した『詩人の恋』という歌曲集も有名。明るい、花咲き乱れる五月を讃えているのに、なぜか哀愁の漂う不完全終止で終わる第一曲が「おお、麗しき五月」です。恋愛詩人だと思われるハイネですが、19世紀のはじめのドイツに生まれてドイツ語で詩を書いていたユダヤ人で、痛烈な社会批判の詩をたくさん書いています。こちらの作品もぜひ読んでもらいたいと思います。ヘッセの訳で有名な高橋健二さんの翻訳とか、井上正蔵先生の訳とか、いくつもの訳があります。図書館で探してみてください。ネット上にも訳を掲載したページがあります。

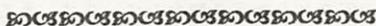
エリュアール詩集

ポール・エリュアール

エリュアールの「自由」という詩を大島弓子さんのマンガ『ローズティー・セレモニー』で読んで、不覚にも泣きました。最後のページ一面に舞う花吹雪。きっと桜なのだと思います。三月末の高校の実力試験でしょうか。早咲きの桜の花の上に、「わたしは生まれた お前に名づけるために 自由よ!」という詩の最後の2行が記されています。花の下には、処分覚悟で試験をボイコットして校庭に飛び出してくる全校の生徒たち。このページには、何のために勉強なんかしてるのかという、その答えが示されています。エリュアールはフランスのシュル・レアリスムの詩人。第二次世界大戦中はナチス・ドイツに抵抗する詩をたくさん書いています。この人の作品にもいろいろな訳があります。小沢書店からは宇佐美斉さんの翻訳が出ていますし、彌生書房からは山崎栄治さんの、飯塚書店からは嶋岡展さんの訳が出ています。朝北社からはこやま峰子さんの訳で「自由」の詩の絵本が、『自由』のタイトルで出ています。



幼児教育 石井 玲子



博士の愛した数式

小川洋子
新潮文庫

記憶が80分しか持たない数学者「博士」、家政婦の「私」、そして私の息子でタイガースファンの小学生「ルート」の3人が共に過ごした日々を綴った物語で、最近映画化された話題の本。読んでいくうちに、純粋なものを追求していく美しさと真実を見出すことへの喜びを感じることができ、逆に人として純粋であるが故に生きていくことに苦勞する現実、というものを認識させられます。「日常生活」と無限に広がる神秘的な「数」の世界が融合して、春になってゆっくりと雪がとけていくように、心の中がだんだん温まってくるような物語です。

国際教養 権 寧俊

韓国の「昭和」を歩く

鄭銀淑
祥伝社

植民地朝鮮の日本人

高崎宗司
岩波新書

1876年に日朝修好条規（江華島条約）が結ばれ、たくさんの日本人が朝鮮半島に居住するようになりました。その数は日本敗戦の1945年まで、一番多い時期には75万人がいたといわれています。『韓国の「昭和」を歩く』は、韓国人である著者が韓国に残っている当時の日本風の民家、商店、庁舎建物をルポルタージュしたものです。日本家屋や日本建築が、どこに、どんな形で、どんな風に残っているのか、を多くの当時の写真と現代の写真とを加えて紹介しています。ただし、歴史の状況に関する叙述には著者本人が歴史の研究者ではないため、事実関係において多くの穴が見られます。そのため、もう一冊『植民地朝鮮の日本人』を推薦します。本書は、植民地期の朝鮮における日本人の70年間の軌跡を総体的にまとめたものです。当時の在朝日本人の生活の様子、日本人と朝鮮人との関係、教育状況など、在朝日本人の具体的な例をあげ触れられています。

皆さん、雪がとけたら、以上の二冊を読んで韓国に出かけてみたらどうでしょうか。これから広がる日韓関係や日韓交流について考えさせる何かのヒントを与えてくれる、と思います。

国際教養 柳町 裕子

トマシーナ

ポール・ギャリコ
創元推理文庫

雪がとけたらネコの季節。というわけで、トマシーナというネコが語り手の小説を推薦します。でも、トマシーナは途中で安楽死させられてしまいます。え？死んでも、どないなんねん？私が関西で高校生活をおくっていた頃、何度も読み返したお気に入り的小説です（でも、トマシーナが死んでしまうところは、つらすぎるので飛ばして読みます）。しばらく絶版になっていましたが、最近、新訳で再登場しました。ポール・ギャリコには「ジェニイ」という、もうひとつ有名なネコ小説がありますが、ジェニイはトマシーナの大叔母にあたるそうです。ちなみに、この小説と関西弁は関係ありません。でも、関西時代、ネコに囲まれて暮らしていたせいか、私の中でネコはいつも関西弁でしゃべります。

国際教養 水上 則子

絵本を抱えて 部屋のすみへ

江國香織
新潮文庫

「絵本について」書かれたものを読んで、絵本を読むような喜びを味わうことはできないのが普通ですが、江國香織という人は、そういう難しいことを、一見さりげない文章で実現してしまうすごい人です。雪のように積もった仕事かとけたら、この本を片手に大きな本屋さんを訪れて、あれこれと絵本を選んでみたいものですが・・・春はいつ来るのでしょうか・・・。

第10号記念 特別付録

「どこでもドアのかぎ」第1号～第10号
推薦書一覧

第1号から第10号までに掲載された推薦書を一覧にしました。推薦者の氏名順になっています。推薦文などの詳細は、生協ホームページ上のバックナンバーをご覧ください。

なお、表中の※印は、かつて県短に在職し、その後退職・転出された先生です。

所属	氏名	書名	著者	号
国際教養	青木周三※	文章の書き方	辰濃和男	1
		孔子	井上靖	1
		日本人と日本文化	司馬遼太郎・ドナルド・キーン (対談)	1
生活福祉	姉齒暁※	人間を幸福にしない日本というシステム	カレル・ヴァン・ウオルフレン	1
		なぜ世界の半分が飢えるのか	スーザン・ジョージ	1
		人はなぜ騙されるのか 非科学を科学する	安斎育郎	1
		コメの話	井上ひさし	1
		日本国憲法の精神	渡辺洋三	1
		カプトガニの不思議	関口晃一	1
		「血液型と性格」の社会史 (血液型を信じているあなたへ)	松田薫	1
		「血液型と性格」の社会史 (血液型を信じているあなたへ)	松田 薫	2
		私の「漱石」と「龍之介」	内田百閒	3
		荻原守衛 忘れえぬ芸術家 上下	林 文雄	3
		ゲルニカ物語ーピカソと現代史ー	荒井 信一	3
		心に刻む歴史 ドイツと日本の戦後50年 ワイツゼッカー前独大統領講演全録	東京新聞戦後50年取材班編	4

		ゆたかな国をつくる 官僚専権を越えて	宇沢弘文	4
		人はなぜ騙されるのか 非科学を科学する	安斉育郎	4
		不安社会を生きる	内橋克人	5
		沈まぬ太陽 (3部構成全5巻)	山崎豊子	5
国際教養	飯田規和*	罪と罰	ドストエフスキー	1
		検察官	ゴーゴリ	1
		現代の英雄	レールモントフ	1
		復活	トルストイ	1
学長	飯田規和*	おろしや国酔夢譚	井上靖	2
		シベリア追跡	権名誠	2
幼児教育	石井玲子	ボクの音楽武者修行	小沢征爾	10
		恋	小池真理子	10
		博士の愛した数式	小川洋子	10
幼児教育	石垣健二*	ことばが劈かれるとき	竹内敏晴	5
		吾輩ハ苦手デアル	原田宗典	5
		「わかる」ということの意味	佐伯胖	6
		他力	五木寛之	6
		新しい歴史教科書 (市販本)	西尾幹二 (代表)	6
		リング	鈴木光司	7
		子どもたちはなぜキレるのか	斎藤孝	7
		「あと一球っ!」の精神史-阪神ファンとして生きる意味-	井上章一	8
		14歳からの哲学-考えるための教科書-	池田晶子	8
		自分の顔が許せない!	中村うさぎ 石井政之	9
		かもめのジョナサン	リチャード・バック	9
国際教養	石川伊織	ファンシイダンス (コミック)	岡野玲子	1
		陰陽師 (コミック)	岡野玲子	1
		パリ燃ゆ	大仏次郎	1
		キャナリー・ロウ<缶詰横町>	スタインベック	1
		古典教養そこつ講座	夏目房之介	1

		アニメーションの色職人	柴口育子	2
		明和電機 魚器図鑑	土佐正道・土佐信道	2
		ぼくらの鉱石ラジオ	小林健二	2
		野草	魯迅著 竹内好訳	2
		カテドラル	デビット・マコーレイ	2
		天球図の歴史	ピーター・ウィットフィールド	2
		薔薇の名前 (上下)	ウンベルト・エーコ	2
		名作 (1・2)	夏目房之介	2
		日本文学全集	清水義範	2
		カント・アンジェリコ	高野史緒	2
		全国アホ・バカ分布考	松本修	3
		時の娘	ジョセフィン・テイ	3
		怒濤の虫	西原理恵子	3
		コーヒーハウス物語	ハンス＝ヨアヒム・シュルツェ	3
		道楽科学者列伝	小山慶太	3
		コペルニクス革命	トーマス・クーン	3
		三酔人経綸問答	中江兆民	3
		恋する女たち	氷室冴子	3
		貨幣とは何だろうか	今村仁司	3
		ファウスト	J.W. ゲーテ	4
		ファウスト	手塚治虫	4
		ネオ・ファウスト	手塚治虫	4
		とんかつの誕生 明治洋食事始め	岡田哲	5
		新約聖書はなぜギリシア語で書かれたか	加藤隆	5
		新約聖書の誕生	加藤隆	5
		田宮模型の仕事	田宮俊作	5
		たんぼぼのお酒	レイ・ブラッドベリ	5
		幕府天文方御用 伊能測量隊まかり通る	渡邊一郎	5

	君たちはどう生きるか	吉野 源三郎	5
	紅一点論	斎藤美奈子	6
	教養としての〈まんが・アニメ〉	大塚英志＋ササキ バラ・ゴウ	6
	ゑひもせず	杉浦日向子	6
	文壇アイドル論	斎藤美奈子	7
	妊娠小説	斎藤美奈子	7
	ソウル ファイター	木村彩日香	7
	須賀敦子のミラノ	大竹昭子	7
	須賀敦子のヴェネツィア	大竹昭子	7
	須賀敦子のローマ	大竹昭子	7
	ミラノ 霧の風景	須賀敦子	7
	ニッポン近代化遺産の旅	増田彰久・清水慶一	7
	都市の記憶 美しいまちへ	鈴木博之ほか	7
	家族革命前夜 (家族革命イブ)	賀茂美則	8
	モダンガール論	斎藤美奈子	8
	お姫様とジェンダー	若桑みどり	8
	お父さん、怒鳴らないで	毎日新聞家庭生活 部編	8
	天才柳沢教授の癒セラピィ	川崎克哲＋山下和 美	8
	横書き登場——日本語表記の近 代——	屋名池誠	8
	スタンウェイ物語	R. K. リーバーマン	8
	大人は判ってくれない	野火ノビタ＝榎本 ナリコ	8
	はじめての雅楽	笹本武志	8
	大江戸透絵図——千代田から江 戸が見える	北原進監修＋千代 田区江戸開府 400年記念事業実行 委員会	8
	緑日お散歩図鑑	オオカワヨウコ	9
	棟梁たちの西洋館	増田彰久	9
	秩父事件	秩父事件研究顕彰 会 (編)	9

		定刻発車	三戸裕子	9
		サヨナラ、学校化社会	上野千鶴子	9
		私たちの独立起業ヒストリーin 新潟	ワーキングウイメンズ アソシエーション (編著)	9
		上司は思いつきでものを言う	橋本治	9
		永遠平和のために	イマヌエル・カント	9
		華氏 451 度	レイ・ブラッドベリ	9
		<女中>イメージの家庭文化史	清水美知子	9
		グロテスクな教養	高田理恵子	10
		<いい子>じゃなきゃいけないの?	香山リカ	10
		パズルランドのアリス I・II	レイモンド・M・スマリヤン	10
		貧困の克服——アジア発展の鍵 は何か	アマルティア・セン	10
		のためカンタービレ 既刊1~14 巻	二ノ宮知子	10
		大奥 第一巻	よしながふみ	10
		ハイネ詩集	ハインリッヒ・ハイネ	10
		エリュアール詩集	ポール・エリュアール	10
英文	石栗彩子※	万延元年のフットボール	大江健三郎	2
		城	カフカ	2
		インディヴィジュアル・プロジェ クション	阿部和重	2
		悲劇の誕生	ニーチェ	2
		性の歴史〈1〉 知への意志	フーコー	2
		ドストエフスキーの詩学	ミハイル・バフチン	3
		反復	キルケゴール	3
		探求 I	柄谷行人	3
		ニャーンズ・コレクション	赤瀬川原平	4
		フェミニズム	竹村和子	5
		指輪物語	J. R. R. トールキン	6
		侍女の物語	マーガレット・アト	8

			ウッド	
		知識人とは何か	エドワード・サイード	9
食物栄養	石原和夫	食糧パニック	浅井隆	1
		食の新視点・ライフサイエンスとしての栄養学	木村 修一 著	2
生活福祉	石本勝見	プロカウンセラーの聞く技術	東山紘久	8
国際教養	板垣俊一	歌を忘れた日本人	小島美子	1
		中村久子の生涯・四肢切断の一生	黒瀬次郎	2
		こども風土記・母の手毬歌	柳田国男	3
		わが住む村	山川菊栄	4
		ハーメルンの笛吹き男	阿部 謹也	5
		曠野の花 一石光真清の手記②	石光真清	6
		肉食の思想 一ヨーロッパ精神の再発見一	鯖田豊之	7
		人間社会の形成	今西錦司	9
		百人一首を楽しくよむ	井上宗雄	9
国際教養 図書館長	板垣俊一	1492年のマリア	西垣 通	10
生活福祉	植木信一	どんぐりの家 (コミック)	山本おさむ	1
		コルチャック先生	近藤二郎 著	2
		教育とは何か	大田堯	3
		働くこと育てること	落合由利子	8
英文	太田正之	裏日本一近代日本を問いなおす	古厩 忠夫	2
		反常識講座	渡辺淳一	5
食物栄養	太田優子	星の王子さま	サン=テグジュペリ	1
		星の王子さま	サン・テグジュペリ	2
		少年H	妹尾河童	2
		美味礼賛 (上・下)	ブリア・サヴァラン	3
		複合汚染	有吉佐和子	3
		アンダーグラウンド	村上春樹	4

		二十歳のころ	立花隆+東京大学 教養学部立花隆ゼ ミ	4
		世界がもし100人の村だったら	池田香代子 再話 C.ダグラス・スミス 対訳	6
		茨木のり子 現代の詩人7	茨木のり子 鑑賞：川崎 洋 編集者：大岡 信、 谷川俊太郎	9
英文	大橋儀隆*	福翁自伝	福沢諭吉	1
		日本の思想	丸山真男	1
		ユダヤ人	J.P.サルトル	2
		歴史の暮方	林達夫	3
		王朝物語	中村真一郎	3
		ヨーロッパのキリスト教美術	エミール・マール	4
		人生をいかに生きるか	林 語堂	4
		詩を読む若き人々のために	C.D.ルーイス	5
		英国の文学	吉田健一	5
		英国史(上下)	アンドレ・モロワ	5
幼児教育	大桃伸一	人間をみつめて	神谷美恵子	1
		太陽の子	灰谷健次郎	1
		自立にむかう旅	乾彰夫	1
		生きがいについて	神谷美恵子	2
		太陽の子	灰谷健次郎	2
		だから、あなたも生きぬいて	大平光代	5
		最後の瞽女—小林ハルの人生—	桐生清次	5
英文	岡村仁一*	欲望という名の電車	テネシー・ウィリア ムズ著 小田島雄 志訳	2
		八月の光	フォークナー	3
		シスター・キャリー(上)(下)	ドライサー	4
生活福祉	小澤薫	虚構の楽園	ズオン・トゥー・フ オン	10
		現状報告 路上に生きる命の群— ホームレス問題の対策と提案—	宮下忠子編	10

英文	小谷一明	彼らの目は神を見ていた	ゾラ・ニール・ハーストン	5
		パラダイス	トニ・モリスン	5
		恥辱	J. M. クッツエー	6
		妾の半生涯	福田英子	6
		祖母のくに	ノーマ・フィールド	6
		祭りの場;ギヤマンビードロ	林京子	7
		魂込め (まぶいぐみ)	目取真俊	7
		命こそ宝へ沖繩反戦の心	阿波根昌鴻	8
		日本三文オペラ	開高健	8
		魂の流れゆく果て	梁石日 (ヤンソギル)	9
		石牟礼道子全集 第1巻	石牟礼道子	9
		Sister Outsider	Audre Lorde	9
		ナインインタビューズ 柴田元幸と9人の作家たち(CD付き)		9
		枯木灘	中上健次	10
		エプロンのうた	香山末子	10
		蟹工船・一九二八・三・一五	小林多喜二	10
幼児教育	角張慶子	我らが隣人の犯罪	宮部みゆき	9
		おんなのことば	茨木のり子	9
食物栄養	笠原賀子※	森田療法	岩井寛	2
		カラースケッチ生理学	永田ほか	2
		理科系の作文技術	木下是雄	3
		遺伝子でできること, きまらぬこと	中込弥男	4
		子どもの栄養・食教育ガイド	坂本元子編	8
幼児教育	金澤妙子※	育ての心	倉橋惣三	1
		幼稚園真諦	倉橋惣三	1
		倉橋惣三 その人と思想	坂本彦太郎	1
		子どもたちのいる宇宙	本田和子	1
		子どもの世界をどう見るか	津守真	1
		保育の体験と思索	津守真	1

		子ども学のはじまり	津守真	1
		人間現象としての保育研究 1～3	津守真・本田和子	1
		保育の体験と思索	津守真	2
		子どもの世界をどう見るか	津守真	2
		大学教授そのあまりに日本人的な	桜井	2
		倉橋惣三 その人と思想	坂本彦太郎	2
		保育者の地平	津守真	2
		育ての心	倉橋惣三	2
		幼稚園真諦	倉橋惣三	2
国際教養	木佐木哲朗	悲しき熱帯	レヴィ=ストロース	1
		イシ——北米最後の野生インディアン	T・クローバー	1
		未開の顔・文明の顔	中根千枝	1
		イシ・北米最後の野生インディアン	T.クローバー著 行方昭夫訳	2
		女の文化人類学・世界の女性はどう生きているか	綾部恒雄編	2
		日本社会の歴史 上・中・下	網野義彦	3
		極北のインディアン	原ひろ子	3
		バナナと日本人	鶴見 良行	5
		海の帝国	白石隆	7
		人間にとって法とは何か	橋爪大三郎	8
		木を見る西洋人、森を見る東洋人	リチャード・E・ニスベット、村本由紀子訳	9
学長	岸井勇雄	子育て小事典	岸井勇雄	8
		子育て小事典	岸井勇雄	9
		子育て小事典—幼児教育・保育のキーワード—	岸井勇雄	10
国際教養	権寧俊	韓国の「昭和」を歩く	鄭銀淑	10
		植民地朝鮮の日本人	高崎宗司	10
		ワイルド・スワン (上・下)	ユン・チアン(張戎)	10

国際教養	熊谷明泰*	韓国語はじめの一步まえ	金 裕鴻著	2
		コリアン世界の旅	野村進著	2
		ことばと国家	田中克彦著	2
		アジア読本 韓国	伊藤巫人著	2
		朝鮮紀行ー英国婦人の見た李朝末期	イザベラ・バード	3
国際教養	黒田俊郎	指輪物語 (全6巻)	J. R. トールキン 瀬田貞二訳	2
		パリ/ボナパルト街	海老坂 武	3
		夜と霧ードイツ強制収容所の体験記録ー	ヴィクトール・エミール・フランクル	4
		20世紀SF①: 1940年代星ねずみ	中村融・山岸真編	5
		詩のころを讀む	茨木のり子	5
		存在の耐えられない軽さ	ミラン・クンデラ 千野栄一訳	6
		都心ノ病院ニテ幻覚ヲ見タルコト	澁澤龍彦	7
		恋の映画誌	山田宏一	7
		古事記の世界	西郷信綱	9
		古代人と夢	西郷信綱	9
		子どもたちのアフリカ	石弘之	10
		移民と現代フランス	ミュリエル・ジョリヴェ	10
		日本の詩歌	大岡信	10
生活福祉	小池由佳	口からうんちが出るように手術してください	小島直子	10
		ぶどうの木ー10人の”わが子”とすごした、里親18年の記録	坂本洋子	10
国際教養	後藤岩奈	莊子 古代中国の実存主義	福永光司	3
		日朝関係の克服	姜尚中	8
		混沌からの出発	福永光司 五木寛之	8
生活福祉	斉藤美和子	子どもと悪	河合 隼雄	2
生活科学	坂口淳	ヒートアイランド	齋藤武雄 著	2

		雪はじゃまものか?	鈴木 哲 著	2
		理科系の英語読本	志村史夫 著	2
		データ分析はじめの一步	清水 誠	3
		調べる・身近な環境	小倉紀雄、梶井公美子、藤森真理子、山田和人	4
		やってみよう縄文人生活 課外授業ようこそ先輩 別冊	岡本道雄 NHK「課外授業 ようこそ先輩」制作グループ	6
生活福祉	櫻井慶一*	福祉の思想	糸賀一雄	1
コンピュータ演習室	桜沢祐子*	渡辺社の宇宙人	福島 智著	2
		眠れぬ夜の小さなお話	原 由子著	2
食物栄養	佐藤恵美子	おいしさの科学	山口静子・山野善正編	1
		いま蘇る味の世界 東佐誉子の 人とことば	林定子・川端晶子編	1
		典座教訓 赴粥飯法	平野正章訳	2
		マイナスイオン生活のすすめ	菅原晶子	7
		3食食べてきれいにやせる	菅原明子	8
		素材を生かした新・ふるさとの味	(社)日本栄養士会 全国地域活動栄養士協議会編	8
		開けごまクッキング	岩崎園江	8
生活福祉	佐藤拓也*	ファストフードが世界を食いつくす	エリック・シュローサー 楡井浩一訳	6
		子どもの危機をどう見るか	尾木直樹	6
		非ユークリッド幾何の世界—— 幾何学の原点をさぐる——	寺阪英孝	9
		戦争と有事法制	小池政行	9
英文	佐藤英志	自分の中に奇跡を起こす!	ウェイン・W・ダイアー	1
		知的複眼思考法	荻谷 剛彦著	2
幼児教育	波倉崇行	言いたいことがきちんと伝わる 50のレッスン	平木典子	10

		塩狩峠	三浦綾子	10
英文	渋谷義彦	ソフィーの世界	ヨースタイン・ゴルドル	1
		アルジェーノンに花束を	ダニエル キイス	4
生活福祉	島崎敬子	自分を好きになる本	パット・パルマー	1
		差別を見抜く眼	今野敏彦	1
		死ぬ瞬間	E・キューブラー・ロス	1
		人生の親戚	大江健三郎	1
		出生前診断	佐藤 孝道	5
学長	島津光夫*	豊かさとは何か	暉峻淑子	1
		「風と共に去りぬ」のアメリカ	青木富貴子	1
		考古学の散歩道	田中琢・佐原真	1
		高学歴時代の女性	利谷信義他編	1
国際教養	城山正幸*	コモン・センス	トマス・ペイン	1
		権利のための闘争	イエーリング	1
		法女性学への招待	山下他	1
		権利のための闘争	イエーリング著 村上淳一(新)訳	2
		コモン・センス	トマス・ペイン著 小松春雄訳	2
食物栄養	鈴木裕行*	食材の常識が変わる本-別冊宝島436-	別冊宝島編集部	4
		日本人とユダヤ人	イザヤ・ベンダサン (山本七平)	4
		五分後の世界	村上 龍	4
国際教養	高久由美	中国文明の成立	松丸道雄・永田英正著	2
		文字の文化史	藤枝晃	3
		李陵・山月記	中島 敦	5
		食の文化史	大塚 滋	6
国際教養	田中景	クオ ヴァデイス(上・中・下)	シェンキエヴィチ、 河野与一訳	9
		悲しみよこんにちは	フランソワーズ・サガン、 朝吹登水子訳	9
		身体感覚を取り戻す一腰・ハラ文	斎藤 孝	9

		化の再生一		
英文	ドールトン*	黒い雨	井伏鱒二	3
		Huckleberry Finn	Mark Twain	3
		神との会話 1、2、3	Nealle Donald Walsh	5
生活福祉	徳橋二三男*	高村光太郎のフェミニズム	駒沢喜美 著	2
幼児教育	戸潤幸夫	巨匠に教わる絵画の見かた	早坂優子	9
		名画に教わる名画の見かた	早坂優子	9
		幼児の造形 ワークショップ 3基本と展開	東山明	10
		世界芸術家辞典	世界芸術家辞典事業部	10
国際教養	中澤孝之*	帝国解体前後	枝村 純郎著	2
		ゴルバチョフ回想録(上・下)	M. ゴルバチョフ	2
		クレムリン秘密文書は語る	名越健郎	3
		ロシア国籍日本人の記録	川越史郎	3
		日ソ戦争への道	B. スラヴィンスキー	4
		盗まれた夢	A. マリーニナ	4
国際教養	波田野節子	ベルサイユのばら(コミック)	池田理代子	1
		フーシェ革命暦 I・II	辻邦生	1
		フランス革命下の一市民の日記	セレストン・ギター ル	1
		アジアの都市と建築	加藤祐三	2
		朝鮮王朝実録	朴永圭・神田聡他訳	2
		朝鮮の詩心-「時調(しじょ)」 の世界-	尹学準(ルビ・ユン ハクチュン)	3
		十九歳の東京日記	周恩来/矢吹晋編	5
		ソウルの風景 -記憶と変貌-	四方田犬彦	6
幼児教育	原野明子*	ヒトはなぜ子育てに悩むのか	正高信男著	2
		子どもは小さな哲学者	G. B. マシューズ著 鈴木晶訳	2
		天才たちは学校がきらいだった	トマス・G・ウェス ト著 久志本克己 訳	2

		イタリア古寺巡礼	和辻哲郎	2
		システイーナのミケランジェロ	青木 昭	2
		イソップ寓話集		3
		江戸の親子～父親が子どもを育てた時代～	太田素子	3
		0歳児がことばを獲得するとき	正高信男	4
		幼児の笑いと発達	友定啓子	4
		イメージを読むー美術史入門ー	若桑みどり	4
国際教養	月出皎司*	国際感覚ってなんだろう	渡部 淳	6
国際教養 図書館長	月出皎司*	ロシアについて 北方の原形	司馬遼太郎	7
英文	福嶋秋子	日本語と女	寿岳章子	1
		日本語はおもしろい	柴田武	1
		日本の方言	柴田武	1
		希望のヒロシマ	平岡孜	1
		ホビットーゆきてかえりし物語	J・R・R・トールキン	2
		日本語ウォッチング	井上史雄著	2
		言葉は社会を変えられる 21世紀の多文化共生社会に向けて	宇佐美まゆみ編著	2
		アンネの日記 完全版		3
		アンネ・フランクの記憶	小川洋子	3
		大阪ことば学	尾上圭介	4
		敬語はこわくない 最新用例と基礎知識	井上史雄	4
		1945年のクリスマス 日本国憲法に「男女平等」を書いた女性の自伝	ベアテ・シロタ・ゴードン	5
		異文化理解	青木 保	6
		戦争責任とは何かー清算されなかったドイツの過去	木佐 芳男	6
		英語を学ぶなら、こんなふうにかえ方と対話の技法	加藤恭子	7
		手話ということば もう一つの日本の言語	米川明彦	7
		教えることの復権	大村はま/荻谷剛	8

			彦・夏子	
		当事者主権	中西正司・上野千鶴子	8
		英文法の疑問 恥ずかしくてずっと聞けなかったこと	大津由紀雄	9
		問題な日本語	北原保雄編	9
		物は言いよう	斎藤美奈子	9
		オニババ化する女たち 女性の身体性を取り戻す	三砂ちづる	9
		続弾！ 問題な日本語	北原保雄編著	10
		わかったつもり 読解力がつかない本当の原因	西林克彦	10
英文	福本圭介	怒りの方法	辛淑玉	10
		暴力の哲学	酒井隆史	10
		死にいたる病	セーレン・キルケゴール	10
		無産大衆神髄	矢部史郎、山の手緑	10
		坂口安吾全集 (14) (15)	坂口安吾	10
国際教養	堀江薫	憲法と国家ー同時代を問うー	樋口 陽一	4
		フェルマーの大定理が解けた！	足立 恒雄	4
		地球環境報告Ⅱ	石 弘之	5
		権威と権力	なだいなだ	6
生活科学	本間善夫	アルケミストー夢を旅した少年	P・コエーリョ	1
		奪われし未来	Theo Colborn, John Peterson, Myers and Dianne Dumanoski 著	2
		愛華、光の中へ	坪田愛華・陽子著	2
		われ笑う、ゆえにわれあり	土屋賢二	3
		エコロジー的思想のすすめ	立花隆	3
		不安の世紀から	辺見庸	3
		反逆する風景	辺見庸	3
		ゾウの時間 ネズミの時間	本川達雄	3
		金属は人体になぜ必要か	桜井弘	3

		物理定数とは何か	西條敏美	3
		南の島のティオ	池澤夏樹	3
		市民科学者として生きる	高木仁三郎	4
幼児教育	松木真言*	アクティブ・マインド—人間は動きの中で考える	佐伯胖・佐々木正人編	1
		三国志	吉川英治	2
		こころとからだ	五木寛之	2
国際教養	水上則子	もの食う人びと	辺見庸	1
		女性画家列伝	若桑みどり	1
		ソラリスの陽のもとに	スタニスワフ・レム	1
		一世紀より長い一日	アイトマートフ	1
		かわいい女・犬を連れた奥さん	アントン・チャーホフ著 小笠原豊樹訳	2
		マルテの手記	リルケ	2
		聡明な女は料理がうまい	桐島 洋子著	2
		火車	宮部 みゆき著	2
		みみをすます	谷川 俊太郎著	2
		われら	ザミャーチン	3
		世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド	村上春樹	3
		遠景のロシア 歴史と民俗の旅	中村 喜和	4
		丸亀日記	藤原新也	4
		ダーシェンカ	カレル・チャペック	4
		収容所から来た遺書	辺見じゅん	5
		窠変 源氏物語（1～14）	橋本治	5
		女たちのジハード	篠田節子	6
		ゲイルズバーグの春を愛す	ジャック・フィニイ	6
		アンダーグラウンド	村上春樹	6
		二十歳のころ	立花隆	6
		星の王子さま	サン・テグジュペリ	6
		遠い朝の本たち	須賀 敦子	6
		思考のレッスン	丸谷才一	7

		お姫様とジェンダー	若桑みどり	8
		西の魔女が死んだ	梨木香歩	8
		女帝のロシア	小野理子著	9
		痛快！コンピュータ学	坂村 健	9
		博士の愛した数式	小川洋子	10
		祖国とは国語	藤原正彦	10
		絵本を抱えて 部屋のすみへ	江國香織	10
国際教養	三宅登之*	日本語の意味 英語の意味	小島義郎	1
食物栄養	宮西邦夫	味覚障害とダイエット 「知られざる国民病」の処方箋	富田寛	7
		怖い体脂肪をどう減らすか	片岡邦三	8
		病気になるない生き方 ミラクルエンザイムが寿命を決める	新谷弘美	10
		なぜ「粗食」が体にいいのか	帯津良一、幕内秀夫	10
国際教養	村屋勲夫*	世界の歴史 (全16巻)		1
		ルーツ (上・中・下)	アレックス・ヘイリー	1
		軍国日本の興亡	猪木正道	1
		アメリカ精神の源	ハロラン美美子	3
		日米関係の経済史	原田泰	3
		円とドル	吉野 俊彦	4
		不思議の国 アメリカ	松尾 弑之	4
		無意識の構造	河合隼雄	5
		ベーシック アメリカ経済入門 新版	原田和明	5
		アメリカとアメリカ人	ジョン・スタインベック	8
生活科学	森川英明*	深夜特急 1～6	沢木耕太郎	1
		猿の食べのこし	中島らも	1
		エエカゲンが面白い	森毅	1
		レポートの組み立て方	木下是雄	1
		実践 言語技術入門	言語技術の会	1
		若き数学者のアメリカ	藤原正彦	1
国際教養	柳町裕子	外国人が日本語教師によくする	酒入郁子ほか著	2

		100の質問		
		女には向かない職業	P. D. ジェイムズ	2
		〈性〉のミステリー	伏見憲明	3
		よみがえるロシア	五木寛之	3
		あらゆる信念	ライア・マテラ	3
		異性愛をめぐる対話	伊藤悟&築瀬竜太	4
		巨匠とマルガリータ (上) (下)	ミハイル・ブルガーコフ	5
		アンナブキンの社会史	小野清美	5
		外国語の水曜日 (学習法としての言語学入門)	黒田龍之助	5
		日本語練習帳	大野 晋	5
		歴史を考えるヒント	網野善彦	6
		ピーコ伝/ピーコこと杉浦克昭	開き手・糸井重里	6
		悪童日記	アゴタ・クリストフ 堀茂樹訳	6
		魔女狩り	森島恒雄	6
		ユダヤ人	J. P. サルトル	6
		同性愛・多様なセクシュアリティ /人権と共生を学ぶ授業	“人間と性”教育研究所【編】	7
		変身	カフカ	7
		トニオ・クレエゲル	トーマス・マン 実 吉捷郎【訳】	7
		白夜	ドストエフスキー 小沼文彦【訳】	7
		外套	ゴーゴリ 平井肇 【訳】	7
		サロメ	オスカー・ワイルド 福田恒存【訳】	7
		ジークル博士とハイド氏	スティーヴンソン 大谷利彦【訳】	7
		絵のない絵本	アンデルセン 山 野辺五十鈴【訳】	7
		日本の名詩を読みかえす	高橋順子編	9
		汚れつちまつた悲しみに……/ 中原中也詩集	中原中也	9

		ブエノス・ディアス、ニッポン～ 外国人が生きる「もうひとつのニッポン」	ななころびやおき	10
		トマシーナ	ポール・ギャリコ	10
生活科学	山岸明浩*	快適環境の科学	大野秀夫・堀越哲美・久野覚・土川忠浩・松原斎樹・伊藤尚寛著	2
		養老孟司の<逆さメガネ>	養老孟司	8
食物栄養	山田雅子*	知の技法	小林康夫・船曳建夫編	1
		腸は考える	藤田恒夫	1
		ブレインサイエンス・シリーズ2 (脳の老化)	大村裕・中川八郎編	1
国際教養	山根麻紀*	クオ・ワディス (全3巻)	ヘンリック・シェンキエヴィチ	4
		愛するという事	エーリッヒ・フロム	4
国際教養	若月章	女たちのアジア	松井やより	1
		女たちがつくるアジア	松井やより	1
		国際感覚ってなんだろう	渡部淳	1
		在日外国人 新版——法の壁・心の溝	田中宏	1
		同盟を考える	船橋洋一	3
		地球環境報告 II	石 弘之	3
		裏日本	古厩 忠夫	5
国際教養	渡辺淑子*	ヴェニス商人	シェイクスピア 作・小田島雄志訳	1
		夏の夜の夢	シェイクスピア 作・小田島雄志訳	1
		ロミオとジュリエット	シェイクスピア 作・小田島雄志訳	1
		リヤ王	シェイクスピア 作・小田島雄志訳	1
		ハムレット	シェイクスピア	2
		漢詩入門	一海知義	3

「どこでもドアのかぎ10」アンケートのお願い

どこでもドアのかぎ・第10集の
感想をおしえてください。
以下のアンケートに記入して、生協店舗の
「一言カードボックス」へ！
抽選で50名の方に、500円分の図書券を
差し上げます。

締切 5月31日（水）

①「どこでもドアのかぎ10」全体についてのご感想・ご意見を書いて
ください。

②この冊子を見て読みたくなった本があったら教えてください。でき
れば理由もお願いします。

③他にどんな分野の本を紹介してほしいと思いますか。希望をお聞かせください。

④その他、生協について、教職員委員会・学生委員会について、ご意見や要望があればお聞かせください。

所属 _____ 学年 _____ 氏名 _____

ご協力ありがとうございました。

(キリトリセン)

2005 年度卒業／2006 年度入学記念

どこでもドアのかぎ 10

県立新潟女子短期大学生協
教職員委員会編

2006年3月20日 発行

表紙： 福嶋恵